



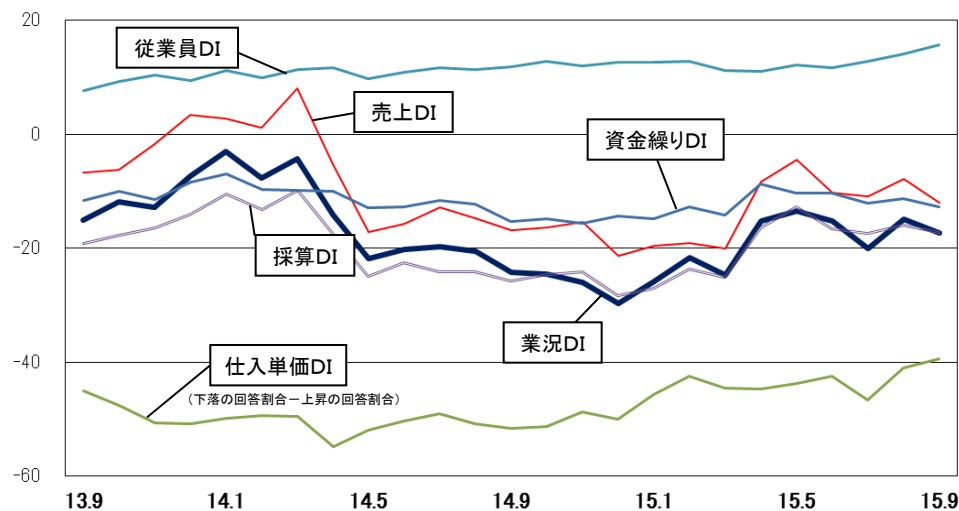
業況DIは、一進一退。先行きも慎重な見方続き、横ばい圏内の動き

ポイント

▶ 9月の全産業合計の業況DIは、▲17.3と、前月から▲2.4ポイントの悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったことに留意が必要。好調な観光関連の牽引が続く中、住宅投資に加え、公共工事にも持ち直しの動きがみられる。他方、価格転嫁の遅れや人手不足、人件費の上昇が足かせとなる状況に変わりはなく、台風や大雨など天候不順の影響もあって、中小企業の景況感は地域・業種などによってばらつき、一進一退の動きが続く。

▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲16.5(今月比+0.8ポイント)と横ばい圏内の動き。観光需要の拡大や住宅・設備投資の回復、公共工事の持ち直しなどへの期待が伺える一方、家計負担の増大が消費者マインドを下押しする中、消費低迷の長期化を懸念する声も聞かれる。加えて、コスト増加分の価格転嫁や人手不足などへの対応が遅れる企業では、先行きに対して慎重な見方が続く。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2013年9月以降)



2015年度の所定内賃金の動向

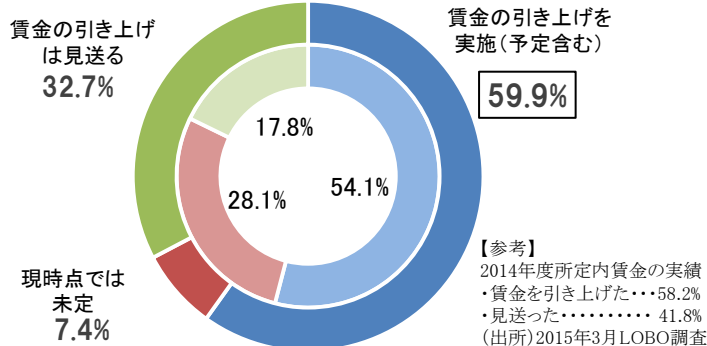
- ▶ 2015年度に「賃金の引き上げを実施した企業(予定含む)」(全産業)は、59.9%と6月調査より5.8%増加した。
- ▶ 一方、「引き上げを見送る(予定含む)」企業は、32.7%と6月調査より14.9%増加した。特に、小売業では「現時点では未定」から「引き上げは見送る」に転じた企業の割合が多く(「引き上げは見送る企業の割合」6月調査24.8%⇒9月調査44.9%)、先行きへの慎重な姿勢が伺える。

[中小企業の声]

- ▶ 従業員の定着のため一時金を増額して支給。また、人材確保のためにベアを実施し、採用募集をしているが応募がない (十和田 自動車販売業)
- ▶ 最低賃金の引き上げに伴う人件費の増大が見込まれるため、大規模な設備投資を計画していたが、見直さなければならない (熊谷 ホテル業)
- ▶ 売上が過去最高となる見込みであり、業況・採算とも改善していることから、従業員に期末賞与を支給する予定 (静岡 食料品卸売業)
- ▶ 消費が伸びない中、仕入れ価格の上昇が続き、先行きの懸念が増しているため、賃金は上げられない (刈谷 食料品小売業)
- ▶ 建築資材の仕入れ価格が高止まり、収益を圧迫しているが、社員のモチベーションを上げるために定期昇給を行う (勝山 建築土木業)
- ▶ 定期昇給を実施できなかった分、秋に一時金の支給を検討中 (京都 広告代理業)
- ▶ 原材料費の上昇に加え、個人消費の低迷のため、業績がふるわない。利益確保が見込めず、賃上げは厳しい (坂出 菓子製造業)
- ▶ 売上が伸び、業況も改善しているため、若手社員を対象にベアを実施する予定 (熊本 総合百貨店)

◆2015年度の所定内賃金の動向(全産業)

※円グラフの外側が9月調査、内側は6月調査



<業種別の賃金引き上げ状況>  
(引き上げ) (見送り)

建設業	68.5%	28.4%
製造業	67.4%	27.3%
卸売業	66.1%	27.4%
小売業	46.5%	44.9%
サービス業	55.0%	32.7%

<賃金引き上げの内容>

定期昇給	: 77.1%
ベースアップ	: 30.8%
手当の新設・増額	: 12.5%

※賃金の引き上げを実施(予定含む)した企業が対象。複数回答

【参考】  
2014年度所定内賃金の実績  
・賃金を引き上げた...58.2%  
・見送った...41.8%  
(出所)2015年3月LOBO調査

# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2015年9月調査結果 —

JAPAN RESTART  
日本再出発

 日本商工会議所  
The Japan Chamber of Commerce and Industry  
2015年9月30日

## 業況DIは、一進一退。先行きも慎重な見方続き、横ばい圏内の動き

### <結果のポイント>

- ◇9月の全産業合計の業況DIは、▲17.3と、前月から▲2.4ポイントの悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったことに留意が必要。好調な観光関連の牽引が続く中、住宅投資に加え、公共工事にも持ち直しの動きがみられる。他方、価格転嫁の遅れや人手不足、人件費の上昇が足かせとなる状況に変わりはなく、台風や大雨など天候不順の影響もあって、中小企業の景況感は地域・業種などによってばらつき、一進一退の動きが続く。
- ◇業種別では、建設業は、住宅関連の持ち直しが続くほか、低調だった公共工事に動きが出始めるなど、改善。製造業は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因。工作機械やスマホ向け電子部品、堅調な観光関連に下支えされた食料品製造業などが底堅く推移した。卸売業は、気温の低下や天候不順を受けて、青果物の出荷が鈍かったことなどから受注が伸び悩み、マイナス幅が拡大。小売業は、プレミアム付商品券の効果により売上が伸びたとの声が聞かれるものの、消費者マインドに弱さがみられる中、台風や大雨に伴う来客数の減少が売上を下押ししたことなどから、悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化も影響していることにも留意が必要。サービス業は、パート・アルバイトの人件費上昇が収益を圧迫しているほか、運送業では、天候不順に伴い出荷が滞った青果物を中心に、荷動きが乏しかったことなどから、悪化。ただし、インバウンドやシルバーウィークに向けた国内観光の需要が伸びた宿泊業などでは堅調に推移している。
- ◇先行きについては、先行き見通しDIが▲16.5（今月比+0.8ポイント）と横ばい圏内の動き。観光需要の拡大や住宅・設備投資の回復、公共工事の持ち直しなどへの期待が伺える一方、家計負担の増大が消費者マインドを下押しする中、消費低迷の長期化を懸念する声も聞かれる。加えて、コスト増加分の価格転嫁や人手不足などへの対応が遅れる企業では、先行きに対して慎重な見方が続く。

### ----- 調査要領 -----

○調査期間 2015年9月11日～17日

○調査対象 全国の422商工会議所が2985企業にヒアリング

(内訳) 建設業：463 製造業：720 卸売業：321 小売業：704 サービス業：777

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および自社が直面する問題等

※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算：(好転) - (悪化)      売上：(増加) - (減少)

## ＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業で改善、その他の4業種で悪化した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値の傾向(最近6カ月の傾向)    ⬆ 改善傾向    ⇔ ほぼ横ばい    ⬇ 悪化傾向

### 【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⬆

- ・「従業員のモチベーションを高めるため、賃上げを実施。受注が安定すれば、新規採用等も考えたい」（一般工事業）
- ・「人手不足により受注を見送るケースもあるが、公共工事の発注が出始め、施工単価の見直しも進んでいるため、先行きを期待したい」（建築工事業）
- ・「主力である通信設備関連の受注が低調なため、ビル内の配線など電気工事の取扱いを開始し、売上回復を図っている」（電気通信工事業）

### 【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「シルバーウィークにおける観光客の大幅増により、今月の売上は前年を大きく上回る見込み」（和菓子製造・販売業）
- ・「北米向けなど、取引先の自動車部品の生産が堅調。自社の受注も安定しているため、老朽化した工場の移転・新設を計画中」（金属熱処理業）
- ・「受注量は概ね例年並みを確保したが、納期が短く、取引先からのコストダウン要請も強まっており、採算は厳しい」（自動車部品製造業）

### 【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔

- ・「海外の需要の鈍さを反映し、鉄スクラップの価格が急落。取引先のメーカーへの販売価格も大幅に下がり、採算が悪化している」（再生資源卸売業）
- ・「飲食・宿泊業などへの営業強化により売上が大幅に伸びている。従業員に報いるため、期末賞与の支給を検討している」（食料品卸売業）
- ・「新卒を採用したいが、昨年に比べ、自社への応募が減少。また、選考に進んだ学生が辞退するなど、いまだ採用に結びついていない」（機械工具等卸売業）

### 【小売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⬆

- ・「台風や豪雨の影響もあって、来店客数・売上ともに前年割れとなった」（百貨店）
- ・「地元における外国人観光客の数はそれほど多くはないが、1人で30万円分購入する観光客もおり、今後、集客策を検討したい」（化粧品販売店）
- ・「気温の低下や天候不順が続いたことから、夏物衣料が売れ残った。他方で、秋物商品を早く投入した店舗では客足が伸びた」（商店街）

### 【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	⬆

- ・「軽油価格下落の恩恵はあるが、天候不順の影響により青果物の取引が少なかったことから、稼働率が低く、売上は伸び悩んだ」（運送業）
- ・「ランチタイムは、お得なワンコインメニューの投入により客数が伸びたものの、ディナータイムは苦戦が続いている」（飲食店）
- ・「インバウンド需要の獲得のみならず、2020年のオリンピックを見据え、施設の大幅リニューアルを行う予定」（旅館業）

### 【業況についての判断】

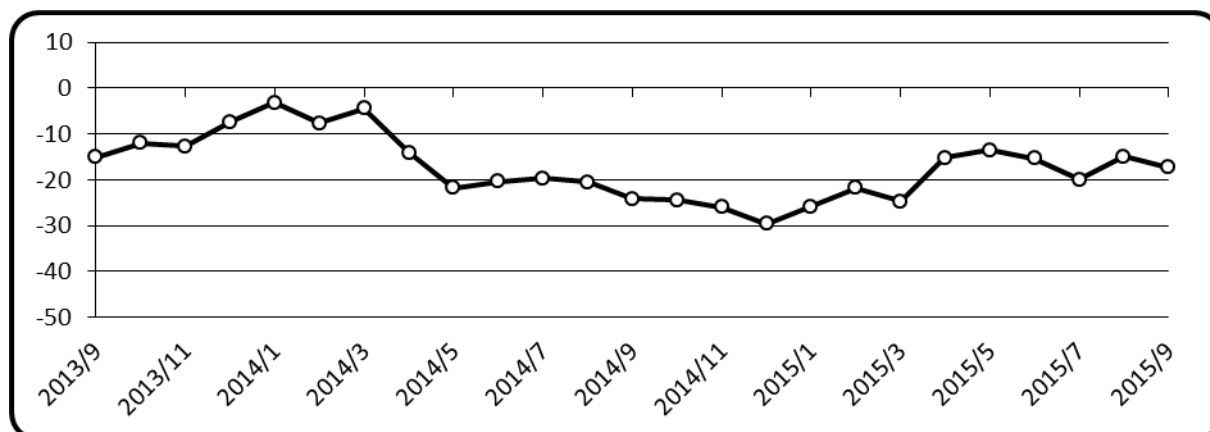
- 9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲17.3（前月比▲2.4ポイント）と、悪化。産業別にみると、建設業は、住宅関連の持ち直しが続くほか、低調だった公共工事に動きが出始めるなど、改善。製造業は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因。工作機械やスマホ向け電子部品、堅調な観光関連に下支えされた食料品製造業などが底堅く推移した。卸売業は、気温の低下や天候不順を受けて、青果物の出荷が鈍かったことなどから受注が伸び悩み、悪化。小売業は、プレミアム付商品券の効果が続くものの、消費者のマインドに弱さがみられる中、台風や大雨に伴う来客数の減少が売上を下押ししたことなどから、マイナス幅が拡大。ただし、「好転」から「不変」への変化も影響していることに留意が必要。サービス業は、パート・アルバイトの人件費上昇が収益を圧迫しているほか、運送業では、天候不順に伴い出荷が滞った青果物を中心に荷動きが乏しかったことなどから、悪化。ただし、インバウンドやシルバーウィークに向けた国内観光の需要が伸びた宿泊業などでは堅調に推移している。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しは、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲16.5（今月比+0.8ポイント）と、ほぼ横ばいの見込み。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、改善を見込む建設業、製造業は「悪化」から「不変」、悪化を見込む小売業、サービス業は「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。卸売業は、飲食・宿泊業向け食料品や住宅・公共工事向け建築資材などの受注増への期待から、改善。

業況DI(前年同月比)の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲15.3	▲13.5	▲15.3	▲20.0	▲14.9	▲17.3	▲16.5
建設	▲10.1	▲13.4	▲15.1	▲23.1	▲19.1	▲17.3	▲14.4
製造	▲15.6	▲15.1	▲12.6	▲17.9	▲13.0	▲16.1	▲14.0
卸売	▲20.5	▲17.3	▲20.6	▲23.7	▲15.5	▲24.0	▲19.3
小売	▲18.1	▲13.6	▲19.8	▲24.4	▲23.0	▲24.8	▲26.9
サービス	▲13.2	▲10.0	▲11.6	▲13.9	▲6.5	▲8.7	▲9.8

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



## 【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

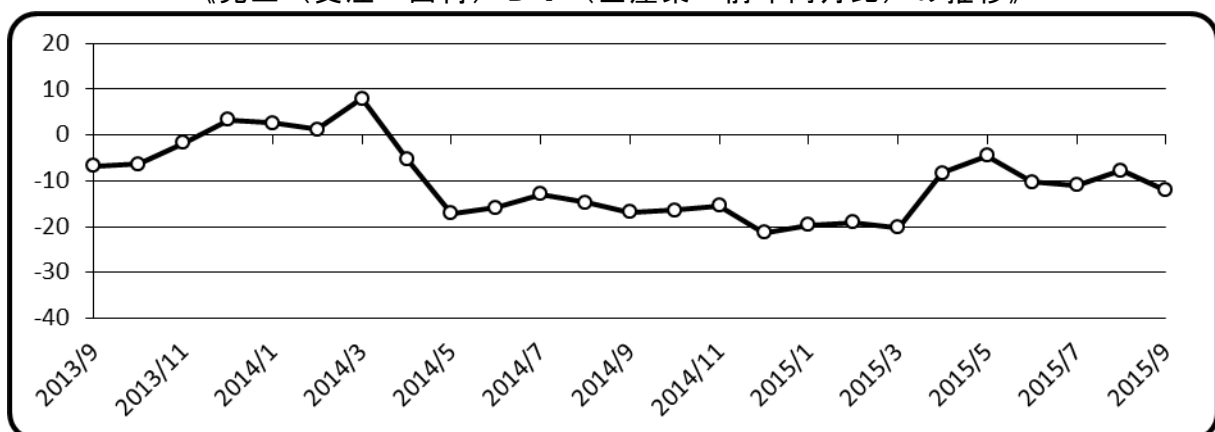
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは▲12.1（前月比▲4.3ポイント）と、悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったことに留意が必要。産業別にみると、建設業は、リフォームや貸家などの住宅投資が伸びつつあるほか、一部では公共工事の発注も増え始めるなど、改善。また、設備投資も、緩やかながら持ち直しに向けた動きが続く。製造業は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。工作機械やスマホ向けなどの電子部品関連が堅調なほか、観光需要に下支えされた食料品製造業でも底堅く推移した。卸売業は、天候不順の影響により、青果物の出荷が鈍かったことなどから、悪化。小売業は、台風や大雨に伴い、客足が遠のき、売上が伸び並んだことなどから、マイナス幅が拡大。ただし、「好転」から「不変」への変化も影響していることに留意が必要。サービス業は、飲料や青果物の荷動きが乏しかった運送業が下押しし、悪化。他方で、宿泊業からはシルバーウィークを中心に稼働率が高水準で推移しているとの声も聞かれた。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲9.7（今月比+2.4ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、悪化を見込むサービス業は「好転」から「不変」、改善を見込むその他の4業種は「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

### 売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲8.3	▲4.5	▲10.2	▲11.0	▲7.8	▲12.1	▲9.7
建設	▲12.6	▲12.9	▲16.7	▲22.2	▲22.7	▲16.4	▲12.6
製造	▲8.2	▲4.4	▲9.4	▲8.2	▲10.6	▲12.6	▲3.8
卸売	▲12.8	▲6.5	▲2.9	▲4.1	0.0	▲9.9	▲8.6
小売	▲4.9	2.7	▲12.6	▲16.4	▲9.7	▲19.2	▲17.9
サービス	▲7.0	▲5.0	▲7.9	▲4.6	3.1	▲2.9	▲7.1

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

### 《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



### 【採算の状況についての判断】

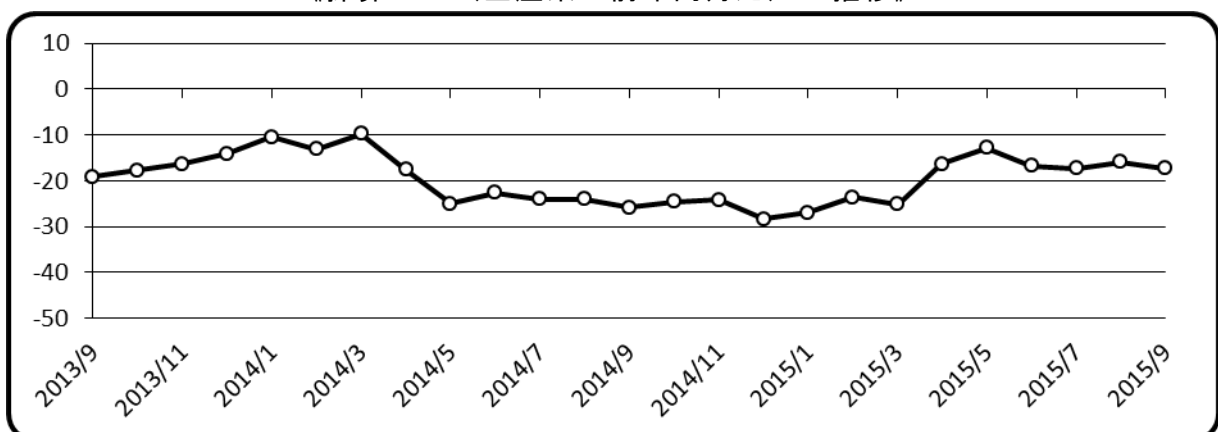
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは▲17.3（前月比▲1.3ポイント）と、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因。産業別にみると、建設業は、燃料価格下落の恩恵に加え、公共工事を中心に施工単価の見直しが進みつつあるなど、マイナス幅が縮小。ただし、人件費や外注費の増大を指摘する声は依然として多い。製造業は、悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が影響していることに留意が必要。取引先からのコストダウン要請の強まりを指摘する声がかかる一方、高付加価値化や新製品開発などにより収益確保を図る動きもみられる。卸売業は、改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。一部では、市況悪化に伴う販売価格の下落を受けて、収益確保が困難になっている状況も伺える。小売業は、食料品・日用品の値上げや野菜の価格上昇などの影響から、消費者の購買意欲が依然として鈍い中、集客のために値下げせざるを得ないなど、収益確保が進まず、悪化。サービス業は、パート・アルバイトの人件費上昇や食料品の値上げが、飲食業などの収益を圧迫しており、マイナス幅が拡大。
- 向こう3カ月（10～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲15.2（今月比+2.1ポイント）と、改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。
- 産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、卸売業は悪化、サービス業はほぼ横ばい。その他の3業種は改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。

### 採算D I（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲16.4	▲12.8	▲16.7	▲17.4	▲16.0	▲17.3	▲15.2
建設	▲13.9	▲12.7	▲15.1	▲21.4	▲19.8	▲14.7	▲13.0
製造	▲15.5	▲13.1	▲18.2	▲19.5	▲15.2	▲18.4	▲9.6
卸売	▲18.1	▲14.9	▲13.0	▲13.1	▲17.2	▲10.7	▲15.9
小売	▲18.5	▲10.6	▲20.4	▲22.0	▲21.3	▲23.6	▲22.4
サービス	▲16.0	▲13.8	▲14.7	▲9.9	▲8.8	▲14.8	▲15.8

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

### 《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

### 資金繰りD I（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲ 8.8	▲ 10.4	▲ 10.4	▲ 12.1	▲ 11.4	▲ 12.8	▲ 13.4
建設	▲ 2.5	▲ 4.6	▲ 7.5	▲ 10.7	▲ 8.3	▲ 9.1	▲ 10.0
製造	▲ 8.8	▲ 10.6	▲ 10.0	▲ 11.5	▲ 12.2	▲ 15.1	▲ 12.2
卸売	▲ 6.0	▲ 7.1	▲ 5.3	▲ 7.7	▲ 6.3	▲ 9.3	▲ 13.2
小売	▲ 16.0	▲ 16.2	▲ 15.5	▲ 19.3	▲ 17.4	▲ 16.8	▲ 20.4
サービス	▲ 7.3	▲ 10.4	▲ 10.5	▲ 9.1	▲ 9.7	▲ 10.8	▲ 11.0

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲12.8と、前月から悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因。産業別にみると、建設業、小売業ではほぼ横ばい、その他の3業種で悪化。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいの見込み。産業別にみると、建設業、サービス業ではほぼ横ばい、製造業で改善、その他の2業種で悪化する見込み。

### 仕入単価D I（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	▲ 44.7	▲ 43.7	▲ 42.5	▲ 46.7	▲ 41.0	▲ 39.5	▲ 33.2
建設	▲ 49.4	▲ 43.9	▲ 41.8	▲ 50.4	▲ 44.5	▲ 42.0	▲ 32.2
製造	▲ 40.3	▲ 37.8	▲ 38.7	▲ 44.7	▲ 36.1	▲ 33.6	▲ 26.0
卸売	▲ 52.7	▲ 59.2	▲ 55.3	▲ 49.7	▲ 51.4	▲ 47.3	▲ 34.7
小売	▲ 44.9	▲ 44.3	▲ 43.8	▲ 46.1	▲ 43.3	▲ 43.5	▲ 43.5
サービス	▲ 42.1	▲ 42.2	▲ 39.7	▲ 45.4	▲ 36.7	▲ 37.0	▲ 31.7

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲39.5と、前月から改善したものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。産業別にみると、小売業、サービス業はほぼ横ばい。改善したその他の3業種も、「悪化」から「不変」の変化が主因であるため、実体はほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。産業別にみると、小売は横ばい。改善を見込むその他の4業種も、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。



### 従業員DI（前年同月比）の推移

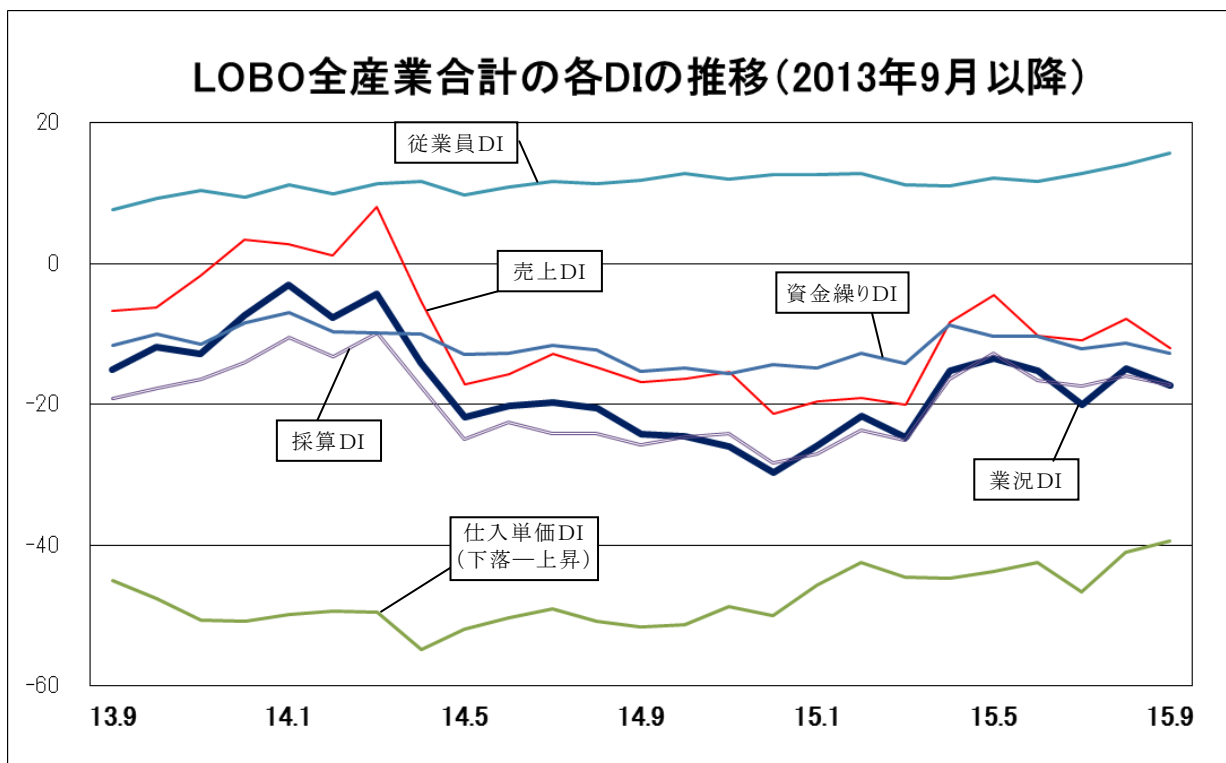
	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	11.0	12.1	11.6	12.8	14.1	15.7	16.4
建設	9.3	14.2	7.9	15.8	13.7	20.3	23.4
製造	2.2	2.3	5.4	4.3	8.5	8.6	7.7
卸売	6.6	4.2	4.1	5.9	8.6	6.6	6.7
小売	16.1	16.9	16.2	15.5	16.7	18.9	17.9
サービス	18.0	20.2	19.5	20.9	20.5	21.2	23.6

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の従業員DIは15.7と、前月から人手不足感が強まった。産業別にみると、建設業、小売業で人手不足感が強まり、卸売業で弱まった。その他の2業種はほぼ横ばい。

【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しは、今月と比べ、ほぼ横ばいとなる見込み。産業別にみると、建設業、サービス業は人手不足感が強まり、その他の3業種はほぼ横ばいとなる見込み。

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI





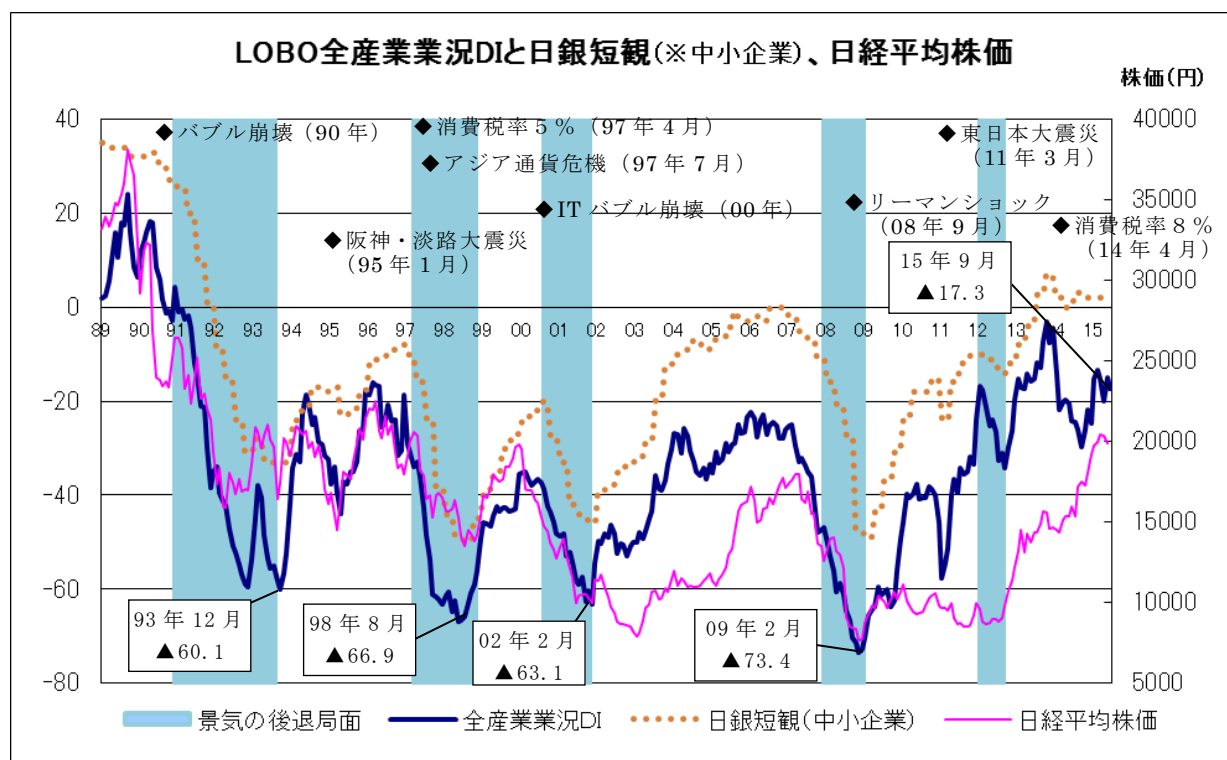
## 【ブロック別概況】

- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、関東で改善、関西、中国でほぼ横ばい、その他の6ブロックで悪化。ブロック別の概況は以下のとおり。
- ・ 北海道は、2カ月ぶりに悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因。国内外からの観光客の増加に牽引され、飲食・宿泊業では底堅い動きが続く。
  - ・ 東北は、気温の低下や大雨などの天候不順の影響により、青果物の出荷が鈍かった卸売業や運送業が全体を押し下げ、2カ月連続でマイナス幅が拡大。
  - ・ 北陸信越は、シルバーウィークに向けて観光関連が好調だったものの、消費者の購買意欲が鈍い中、卸売業・小売業の業況改善が遅れ、2カ月ぶりに悪化。
  - ・ 関東は、好調なインバウンド需要に加え、気温の低下に伴い、秋物商品に動きがみられた小売業や、国内外からの観光客が堅調だった宿泊業が全体を押し上げ、2カ月連続で改善。
  - ・ 東海は、2カ月ぶりに悪化したものの、「好転」から「不変」への変化が主因。自動車に鈍さが残る一方、工作機械が堅調に推移した。また、住宅投資や公共工事が持ち直しつつある建設業でも底堅い動き。
  - ・ 関西は、食料品・日用品などの値上げに伴う消費者のマインド低下を受けて、小売業の売上が低調だった一方、スマホ向け電子部品関連を中心に、受注が堅調な製造業が下支えし、横ばい圏内の動き。
  - ・ 中国は、気温の低下に伴い、秋物衣料の受注が伸びた衣料品メーカーや堅調な工作機械関連で業況が改善する一方、価格転嫁の遅れや人件費の増大により、回復のテンポが鈍い建設業、小売業が下押しし、ほぼ横ばい。
  - ・ 四国は、住宅投資や公共工事の持ち直しが遅れる建設業、消費者のマインド低下に伴い売上が伸び悩む小売業などが全体を押し下げ、3カ月ぶりに悪化。
  - ・ 九州は、人件費上昇や食料品などの仕入価格上昇に伴い、収益が圧迫されている小売業や飲食業の業況が悪化したことなどから、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大。
- ブロック別の向こう3カ月（10～12月）の業況の先行き見通しは、今月と比べ、北海道、東北、関西、中国で改善、関東でほぼ横ばい、その他の4ブロックで悪化する見込み。観光需要の拡大や住宅・設備投資の回復、公共工事の持ち直しなどへの期待が伺える一方、家計負担の増大が消費者マインドを下押しする中、消費低迷の長期化を懸念する声も聞かれる。加えて、コスト増加分の価格転嫁や人手不足などへの対応が遅れる企業では、先行きに対して慎重な見方が続く。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全 国	▲ 15.3	▲ 13.5	▲ 15.3	▲ 20.0	▲ 14.9	▲ 17.3	▲ 16.5
北 海 道	▲ 9.3	▲ 12.7	▲ 15.7	▲ 21.4	▲ 20.7	▲ 22.8	▲ 13.7
東 北	▲ 15.7	▲ 18.4	▲ 20.9	▲ 17.9	▲ 20.6	▲ 28.7	▲ 27.0
北陸信越	▲ 21.3	▲ 11.1	▲ 7.1	▲ 15.6	▲ 10.8	▲ 16.3	▲ 17.8
関 東	▲ 17.2	▲ 16.2	▲ 15.1	▲ 22.7	▲ 18.0	▲ 16.5	▲ 15.9
東 海	▲ 11.1	▲ 0.6	▲ 11.7	▲ 18.1	▲ 10.5	▲ 14.9	▲ 18.0
関 西	▲ 9.1	▲ 10.2	▲ 15.8	▲ 14.5	▲ 13.2	▲ 12.9	▲ 6.5
中 国	▲ 17.9	▲ 17.9	▲ 15.8	▲ 25.3	▲ 11.1	▲ 11.0	▲ 5.6
四 国	▲ 17.3	▲ 17.9	▲ 21.2	▲ 17.1	▲ 8.8	▲ 13.6	▲ 18.2
九 州	▲ 17.7	▲ 17.5	▲ 16.5	▲ 25.2	▲ 14.6	▲ 23.1	▲ 28.7

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI



※短観(中小企業): 資本金2千万円以上1億円未満の企業が調査対象